

当地に住む人々は不思議に思わないのかもしれないが、異邦人たる小生には、色々な風物・事象・事物等に触れる度に、『何故、どうして、そうなの？』とつい疑問を持ってしまう。

(周りに居る者には嫌な性格と思われるかもしれないが…)最近、小生が気になった事項 2つを紹介しよう。これからも、興味と関心を持って調べてみたい。最も小生の意を受けて調べてくれる者には申し訳ないが…

先日、札幌に出張する機会に、スーパー特急「おおぞら」に乗車した。北海道で何故、「おおぞら」なのか、「おおぞら」というのは、この朔東、十勝や釧路と何かしら関係があるのかが疑問であったので、調べてみた。結論的には解らなかつたのであるが、関連情報を得たので紹介しよう。

「おおぞら」は、今でこそ、石勝線・根室線を走る「振り子特急」として知られているが、昭和 36 年に本州を走る「はつかり」と青函連絡船で接続する北海道初の特急として華々しくデビューした。昭和 56 年に石勝線が開通すると帯広・釧路への特急は石勝線経由となり、大幅な時間短縮となった。振り子特急は、車体の重心を下げ、制御装置付き振り子装置の傾斜角度の改善を図ったので、設計最高速度は 145k/h である。

石勝線は、北海道の脊梁である日高山脈を貫通する為、トンネルと橋梁が多い、踏切が少ない(確かに新夕張と新得間には踏み切りはない。また、新千歳～新得間には高々 10 個の踏み切りがあるのみだ。)、スノーシェルターを有している等の特徴がある。札幌までの二時間余り、結構車窓から楽しめる路線でもある。

何故、北海道を走る特急列車の愛称に「おおぞら」が選定されたのかは調べてみたが、解らなかつた。

道東自動車道の建設が進められおり、その一環である広尾道の一部が先日無料で供用開始された。十勝に住んで思うことは、十勝の人々の悲願は、日高山脈を貫通するトンネルの開通であろうし、それには十分に納得出来る。然しながら、それだけで充分という人も多いのかも知れぬ。

帯広の森の大通りには、「3. 3. 9」との道路名が付されている。この数字が如何なる意味を有するものが不明であったので、若干調査した。

最初の数字が道路区分、次の数字が規模区分、最後の数字が一連番号である。都市計画道路の区分は、「1：自動車専用道路」「3：幹線街路」「7：区画街路」「8：特殊街路(歩行者専用道、自転車道等)」「9：特殊街路(都市モノレール専用道等)」になっている。

二番目の数字は、規模即ち幅員を表し、「1：復員 40m 以上」「2：幅員 30m 以上 40m 未満」「3：幅員 22m 以上、30m 未満」「4：幅員 16m 以上、22m 未満」「5：幅員 12m 12m 以上 16m 未満」「6：幅員 8m 以上 12m 未満」「7：幅員 8m 未満」

三番目の数字は、一つの都市計画区域の区分ごとの一連番号である。

従って、前記の数字の意味するところは、帯広市の幹線道路で、幅員 22m 以上、30m 未満の道路で、一連番号が、No9 番ということである。通常の市民生活上は、特段意味のあるものではないが、管理する側にとっては必要なものなのだろう。

